

6 「考える力」ってどうすれば育つの？



話し合い活動やペアでの活動を取り入れて、考えが深められるようにしています。(初任者の声)

話し合いの前提として、個人の考えがしっかりとあること、他の人の考えを聞きたくなっていることを意識しましょう。

学習内容に合わせて、効果的な学習形態(個人・小集団・学級全体等)を選択したり、話し合いの中で「考え」を視覚化したりすることで、思考の深まりや広がりが期待できます。



聞いて考える力の育成

子どもは、「聞くこと」、つまり他者と関わることで考えを深めたり広めたりします。また、話し合いには、自分の考えをもつことも必要です。指導内容や学習活動、子どもの実態に応じて、1時間の授業の中でも複数の学習形態を選択しましょう。一般的に、次のような形態があります。

一斉学習

○ 特長 △ 留意点

- 全体に共通の課題を投げ掛け、多くの考えを知り、集団で思考することができる。教師が子どもの反応を把握しやすい。
- △ 子どもが受け身になることもある。興味・関心を高める工夫をし、全員が考えることのできる課題を設定する必要がある。

小集団学習(グループ、ペア)

- 一人一人が話し合いに参加しやすく、互いの考えを深められる。それぞれの役割が明確になり、主体的な活動が期待できる。
- △ 学習への参加の姿に偏りが見られる場合もある。同質か異質か、少人数か多人数か等、意図をもってグループ編成を行う。目的に応じた明確な指示をするとともに、必然性のある小集団学習となるように授業展開を工夫する。

個別学習

- 一人一人の能力や適性に応じて指導でき、自分のペースで考えることができる。
- △ 思考が広がったり、深まったりしにくい一面があるため、必要に応じて教師が新しい視点を投げ掛ける。個別学習後は、それぞれの考えが生かされるように授業を展開する。

書いて考える力の育成

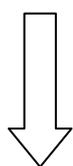
子どもは、書くことによって思いや考えを整理し、よりはっきりと自分の考えを自覚します。また、個々が頭に浮かんだことを書いて視覚化することにより、集団として思いや考えを共有し、更に思考を深めることもできます。

学習活動に応じて、ワークシート、ホワイトボード、付箋紙、模造紙、電子黒板などの準備をしましょう。

思考ツールの活用

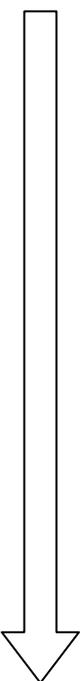
思考ツール(グラフィック・オーガナイザーともいいます。)を活用することで、話し合いや学び合いの過程が目に見える形で残り、子どもが学びを実感できます。

思考場面を設定する



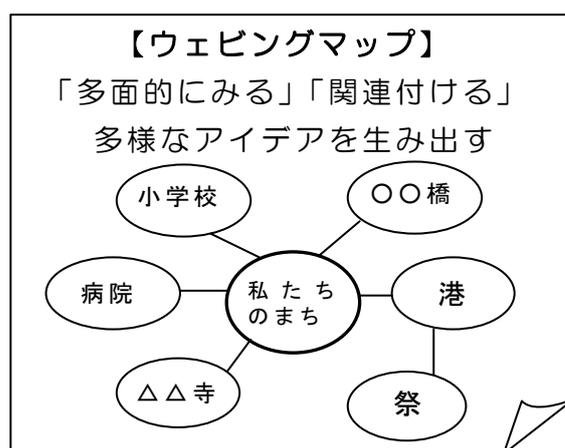
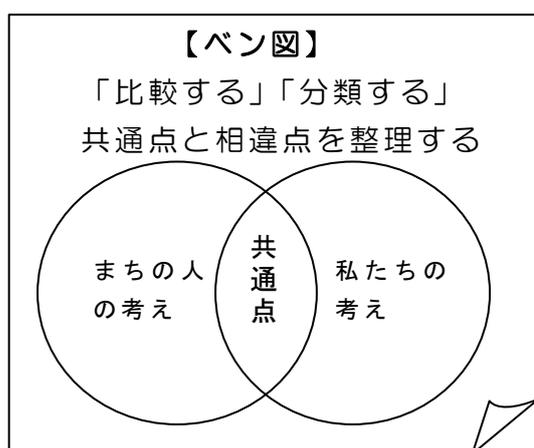
漠然と「考えましょう。」と指示するのではなく、「考えの共通点や相違点を見付けましょう。」「いろいろな立場から見ると、どのように感じるか考えましょう。」など、子どもに考える視点を与えましょう。そして、それぞれの思考場面で有効な思考ツールを用意しましょう。

情報や考えを視覚化させる



自分の考えを整理・分析するだけでなく、互いの考えを聞いたり操作したりしながら、新たな視点を得ることができます。

事前に、個々がどのような考えや情報を、どの程度もっているのか把握しておきましょう。



参考：文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』

自分の意見を再度整理させる

友達と話し合った後、新たに生まれた気付きや意見を自分の中で再構成させましょう。

思考ツールは数多くあります。各学校で、必要なものを選び、様々な教科や内容の指導で活用しながら、考えを深める方法を検討しましょう。